

令和5年度大牟田市文化芸術振興審議会第2回会議

日時	令和5年9月1日（金） 10：00～12：10
場所	大牟田市役所新館4階 302号会議室（経営会議室）
次第	（大牟田市市民協働部長挨拶） 1 資料の確認 （議題） 1 「大牟田市文化芸術振興プラン(第3期)」策定に係る各種調査から見えてきた主な特徴と今後の方向性について 2 大牟田市文化芸術振興プラン(第3期)の素案について 3 大牟田市文化芸術振興プラン(第3期)の案に対する市民意見募集について 4 その他
出席者	（審議会員） 日下部委員、甲斐田委員、野中委員、深浦委員、木村委員、梶原委員、右田委員、香山委員、北島委員、猿渡委員 （事務局） 坂井市民協働部長、徳川課長、龍主査（生涯学習課）

（大牟田市市民協働部長挨拶）

1 資料の確認

事前送付資料から一部修正があるため、資料については改めて本日配布を行う。

（議題）

1 「大牟田市文化芸術振興プラン(第3期)」策定に係る各種調査から見えてきた主な特徴と今後の方向性について

（事務局）資料 1-1、1-2 に沿って説明

（委員）

2 ページの（3）子どもの文化芸術に関するアンケート調査の調査対象者とした学校や学年はどのようにして選んだのか。

（事務局）

学校の場所（市内の北南、中心地等）や生徒数の大小など、市内で特性のあるところを選出している。また、経年変化をみるために、第2期のプラン策定時に調査した学校・学年と同じ対象者としている。

（委員）

若者意識アンケート調査の回答者数が少ないように感じるが、目標値などはあった

のか。また、場所をえるるに限定したのは何か理由があるのか。

（事務局）

若者意識アンケートは、えるるの職員の方にご協力いただき、受付窓口で利用者へアンケート用紙を配布し、紙または QR コードによる回答をお願いした。回答者数は 100 人程度を目指していたが、届かなかった。

えるるは、学習のために毎日多くの学生の方などが利用されているため、一番対象者とする方の意見をいただけたと思い実施した。

また、市が行う各種市民意識調査では 18 歳以上の市民の方を対象に実施するが、若い世代の回答が低くなる傾向がある。そこを補完するため、新たにどこか若い方が集う施設を絞ってアンケートを実施した方がいいだろうということで、えるるにて若者意識調査を行った。

（委員）

3 ページの市民意識調査の中で、「この 1 年間にホール、劇場、映画館や美術館などで、文化芸術活動を直接鑑賞した市民は、47.8%と半数を割る結果となりました。」とあるが、個人的には 47.8%は高い数字ではないかと思う。大牟田市内で撮影が行われた『向田理髪店』が昨年公開された影響もあるかもしれない。普段は映画館には行かないが、知り合いが出演していたり、地元の風景が写ったりするということで、鑑賞した人も多くいるのではないか。

全体的にアンケート調査の結果の分析はよくできていると思う。資料 1-2 に第 3 期プランの実現のための 5 つの取組みが記載されているが、そのうちの 1 つの「芸術文化芸術の魅力をつたえる」が一番自分にとって響いた。幼い頃から鑑賞や発表の機会があり文化芸術に関わることのできる環境にある人達というのは、大人になっても色々なものにも興味関心を持って行動していると思う。そうでない人達に対して、舞台芸術や音楽などの魅力をどうやって幼い頃から伝えていけるのかというのをいつも考えている。学校の役割というのもあるとは思いますが、学校現場も、授業時間数や予算の関係上何でもできるわけではない。文化に関する情報も文化会館などに足を運ばないと得ることが出来ない。

先日も NHK 交響楽団の篠崎先生や藤村先生の音楽指導があり、参加した子ども達にはとても良い経験になったと思うが、そういった著名な先生達の情報をそもそも知らない、どんな人なのかわからないという人達にどうやって広めていくか、どうやって認知度を高めていくかが本当に難しい。

この場は、文化芸術振興のための審議会ではあるが、例えばスポーツ関係であれば、このスポーツをもっと活発にしていこうという話になると思う。文化もスポーツも総合的な人格形成とか人づくりとかそんなところに繋がる。何をどうしたらいいかは中々難しい問題だが、自分としてはそのように感じた。

(事務局)

市では毎年、まちづくり市民アンケートというものを実施し、文化芸術の直接鑑賞の機会についても経年変化を見ているが、新型コロナウイルスの影響により第2期プラン策定時の現状値よりも低い状況にある。

また、鑑賞する頻度について、月に数回鑑賞される市民の方もいれば、年に1回程度しか鑑賞されてない市民の方もいる。一番多い割合が年に1回程度であるため、頻度を増やしていくことが今後の課題であると考えている。

鑑賞したジャンルについても調査を行っているが、最も多いのは映画。香山委員のご意見のとおり『向田理髪店』の公開も少なからず影響しているのではないかと思う。

それと、鑑賞ではなく、バイオリンやチェロといったものに触れる機会、いわゆるアウトリーチをどのようにしていくか、というようなご意見もいただいている。

文化振興財団においてバイオリン等に触れ体験してみる、いわゆるワークショップの事業などを実施されており、非常に人気が高いが、そういった取り組みもやっていきながら、アウトリーチ事業を進めていくことが必要と感じている。

(委員)

市内の小中学校でバレエ公演を行われた先生がいらっしゃるが、学校の中で舞台をするにあたって学校側に準備等の負担がかかりすぎるため、学校側が中々受け取れない、そこがどうにかできないかという声があがっている。もっと文化庁の移動芸術祭などを学校現場で有効活用して欲しい。

ただ、学校現場はとても多忙でスケジュール的にも立て込んでいるという厳しい現実がある。そこをもっと行政がフォローするような形にできないのか。行政がもっと関わることで、バレエの素晴らしい講師の方を学校という場で活用することができる。やはり行政が学校でより文化芸術活動ができるように、どういったサポートをしていくかを考えていく必要があるのではないか。

(委員)

皆さんのお話と重複があるかもしれないが、市民意識調査では、学校で何かやって欲しいとか、どこで何をやっているか分からない(情報がない)という意見が多かったと思うが、芸術に触れる機会を増やすという意味では何があっているかを市民の皆さんに知っていただくということは大事かと思う。

例えば、学校は文化芸術団体に来てもらうケースが多いと思うが、学校が文化会館などに連れて行って、舞台や美術作品の鑑賞などをやれたらいいと思う。全校は難しいと思うが、テストケースを作りながら少しずつでもやれたら。美術作品が子どもに分かりにくければ、解説をしてもらうなどして子どもが文化芸術に触れる機会を増やすことが大事。大牟田美術展なども、こんなに立派な作品を書いて出展されている方がたくさんいるということを知ってもらう機会となる。

第3期のプランは「はぐくむ」と「ささえる」ということを重点とされているが、そういう意味では、そんな下支えとなる方や若い人たちに向けた取組みを行ったらどうかと思う。

昨日、南筑後地区の文化連合会の集まりがあったが、どこの地域も大牟田と同じで、文化団体の高齢化が進み、どんどん厳しい状況。そのような中、ある市では、今年初めて小学校2校をバスに乗せて美術展に連れて行くという試みをされたそう。バスは、市が所有するバスを使われたそうで、今後、市内全校に増やすということも考えてあるようだ。大牟田も行政で応援できる場所があれば、そのような取り組みをしてほしいと思う。

また、市のホームページについて、自分はよく閲覧するが、記事を探すときには検索から入る。しかし、検索してもなかなか自分が知りたい情報にたどり着かない。以前から感じていたが、もっとホームページの作り方を検索しやすいように検討してほしい。そして、今はホームページだけじゃなくて市の公式 LINE をもっと活用すべき。登録者が5万人程度いるということと、ダイレクトに情報を発信できるので発信ツールとしては強い。

(事務局)

学校へのアンケートについては、100%回答をいただいたが、学校で文化芸術に触れるために何が課題であるかという項目に対して、授業時間が少ないとか、準備の負担、費やす時間、会場までの送迎など多くの意見が上がった。

また、どのような支援が必要かという項目では、文化芸術のアーティストの紹介や調整、助成申請等の手続きや費用面の支援などのお声をいただいた。これまで生涯学習課でも、子どもに対する様々な事業を行ってきたが、やはり教育委員会や連携機関の協力が必要不可欠で、協力体制がきちんとできた事業については参加も多かった。今後は、事務局と教育委員会の特に指導室と意見交換や情報共有をしっかりと行いながら、学校からの声に対する支援に取り組みたい。

野中委員からいただいたバスツアーのアイデアについては、現在、アートスクールツアーとあって、市外の美術館などに子ども達をバスで連れていくという事業を行っているが、野中委員のご意見の視点での鑑賞の機会も非常に大切と感じたので、今後検討していきたい。

2 大牟田市文化芸術振興プラン(第3期)の素案について

(事務局) 資料 2-1、2-2に沿って説明

(会長)

障害の「害」の字が、漢字表記であるがそこは大牟田市として決まりがあるのか。ひらがなにする場合もよくあるし、他の自治体での会議の場でもよく話題にあがるのでまず確認をしたい。

(事務局)

各自治体の考えにより「害」は、ひらがなか漢字かで分かれるが、大牟田市の場合、

さまざまな計画等の策定にあたっては、漢字表記で統一されている。また、庁内の各部署に本プランについて意見をもらうこととしており、表現等も含めて確認してもらう予定。

（委員）

プラン案について、ここまでまとめられるのは大変苦労されたかと思うし、よくできている。学校や保護者に対してアンケート調査を実施してあるが、学校現場でも色々取り組んでいることもあるので、そこを踏まえた上で検討いただければと思う。

また、スポーツに関しては、スポーツカレンダーがあって、年間を通してどの時期に何のイベントがあるか分かりやすい。アナログかもしれないが、文化についてもそのようなものがあるとよいのではと思った。種類や団体が多く一律にカレンダーにまとめるのは難しいのかもしれないが。

（事務局）

確かに、文化芸術団体の活動状況等を周知できていない。ホームページや SNS 等でも一部のイベントのみに留まっている。第3期のプランでは、文化芸術団体の活動状況の周知を強化する取り組みを行いたいと考えている。

（委員）

情報発信についてはどの団体も苦労している。文化振興財団の方は耳が痛い話かもしれないが、主催者が作成したポスターの掲示を文化会館にお願いしても、人目につかない外の掲示板に貼られる。文化会館の土地は、以前は1等地であったが今は2等地で人通りが少なくなっている。他の自治体の文化施設は色々工夫して目に付くように掲示してある。ロビーなど、景観も大事かもしれないが、もっと時代や人の動線に合わせて掲示するべきではないのか。そもそもポスター自体が時代遅れとなってきたのかかもしれないが。

（委員）

5つの基本目標を設定してあるが、文化芸術に触れるだけでなく、実際に自ら体験する、活動することについても取り組みを進める旨を記載してはどうか。

（事務局）

触れるという表現には、見るだけでなく参加する、体験するという含まれており、全ての目標に触れる要素が入っているが、野中委員のご意見を踏まえ、もう少し表現を肉付けしていきたい。

（委員）

基本目標2の「文化芸術を身近でたのしむ」の説明に、参加する、発表するという表現をもっと取り入れるとよいかもしれない。

(委員)

日本フィルハーモニー交響楽団との取組みの記載があるが、中学校の吹奏楽部は子どもの数が減って、1つの楽器を誰も担当できない状況のところもある。そうになると演奏会もできないし、そういった課題に対してもっと取り組めないか。

(事務局)

部員の少ない学校では、合同発表の機会を設けたり、高校生と一緒に練習したりしている状況である。

また、文化芸術団体に対するアンケートにおいても、子どもや若者の参加・育成につながる取組みや子どもとの交流を望む声が多かったことから、右田委員の仰っていた課題に対する取組みはもちろん、若い世代への文化芸術の継承の取組みや子どもや若者と関わることで各団体の活性化につながる取組みなどが必要であると考えている。

(委員)

平田オリザさんの事業は、今後も継続される予定か？

(事務局)

第3期のプランには具体的に事業名としては記載していないが、何らかの形で今後も平田オリザさんには関わっていただくつもり。なお、今年度も小学校でワークショップを実施する予定としている。

(委員)

46ページのPDCAサイクルは半時計周りに矢印が書かれているが、反時計回りの場合、「A」の位置に「P」がくるのではないか。

(事務局)

位置を訂正する。

(委員)

資料 2-2 の一覧表において事業の再掲を番号で記載があるが、施策に対してその事業が貢献するから再掲しているのか、それとも事業の内容が変わるのか、こういった考え方なのか。

(事務局)

いわゆる、事業の目的として複数の基本目標に重なる事業については再掲という形で記載をしている。この中では、主たる目標に繋がる事業と従たる目標に繋がる事業とに分かれることから、一覧表などには、そのことが分かるように記載をしたい。

(委員)

大牟田文化会館での学校鑑賞事業が、「質の高い優れた文化芸術に触れることができる機会の創出」の施策に再掲されているが、質の高いものを学校鑑賞事業で求められると予算が相当かかる。また、学校から文化会館に送迎する場合のバスの借り上げ代も1クラス5万円はかかるので、何校も実施は難しいと考える。文化振興財団としては、学校鑑賞事業は今後も続けていきたいと考えているが、位置づけとしては「多様かつ多彩な文化芸術に触れることができる機会の創出」にしておいてはどうか。

(事務局)

施策にぶら下がる取組みの位置づけについては、文化振興財団ともよく協議の上検討していきたい。

(委員)

資料 2-1 の 30 ページの成果指標について「1年間に、実際に文化芸術を鑑賞又は体験する機会があった(学校での機会を除く)」子どもの割合」とあるが、学校での機会を除く理由は何かあるのか。

(事務局)

学校での機会は、学校教育の中のカリキュラムで確立されている。本プランについては、事務局である生涯学習課が中心となって責任をもってやれる範疇を抜き出して成果指標としたところである。

また、アンケート調査においても、学校での機会を除いてどれだけ文化芸術に触れる機会があったかという聞き方をしており、そこが生涯学習課として取組みを行う肝であると考えている。

(委員)

自然体で考えるならば、学校での取り組みも一つの成果である。成果を確認する際には、参考として学校での取り組みも見せていくような形とすればよいのではないかと思う。

(委員)

資料 2-1 の 11 ページの「大牟田市の主な文化芸術団体の概要」について、大牟田音楽家協会という1つの団体を記載されている理由がよくわからない。あとの2つは、大牟田文化連合会や地区公民館のサークルなど複数が集まった団体として記載されているので並列でよいのか疑問。また、団体の規模からして1番目に記載しあるのも違和感がある。記載するのであれば順番を変えるべきではないか。

(事務局)

大牟田音楽家協会を記載した大きな理由は、文化振興財団が主催し音楽家協会が共催して行っている事業などがあることや、市や文化振興財団と実行委員会形式で事業

を実施することが多いなど、文化振興の上で協働のパートナー的存在が特に大きいという認識から記載をした。団体の規模という視点ではない。

(委員)

大牟田音楽家協会としては、ここに記載があることに特に違和感はなく、順番に優劣があるとも思っていなかった。事務局にて説明があったように、パートナーとして広げるところと深めるところをプロの演奏家として意識している。

地域に文化を広げるといふところと、深く自分に磨きをかけて高めていくというピラミッドのような形が文化にはあると思う。広めることの一つとして、文化会館で質の高いものを鑑賞してもらうことがあるが、人としてのマナーや人格を高めることにもつながる。子ども達に平等にそういった経験をさせようと思ったら、確かに予算がかかると思うが、最近では動画でコンサートに無料で参加できるという取組みもしている。

今回のプラン案は本当によくできており、市民の文化芸術の振興のための熱意を感じ、感謝している。そこに委員として、大牟田音楽家協会の一員として関わらせてもらってありがたいという気持ちでいる。

(委員)

大牟田音楽家協会だけでよいのか、他に記載する団体がないのか、というのが一番疑問。

(事務局)

本審議会において、構成団体からの推薦という形で音楽家協会が入っているということも理由の一つ。主な文化芸術団体と記載しているとおおり、全てをここで網羅して記載しているつもりはない。

(会長)

このままでもよいと思うし、3つしか記載がないことでちょっと目立ってしまっているのかもしれない。もう1つ位増やして記載するのもありなのでは。

(委員)

なぜ文化振興財団は、音楽家協会とだけ組んでいるのか。

(委員)

ジュニアピアノコンクールという歴史ある事業でのつながりから、さまざまな事業が派生していった。特につながりが深いというだけで、他の団体との連携を拒否しているつもりはない。

(委員)

音楽家協会は専門家（プロ）なので、高いレベルで音楽活動をされているというこ

とを記載しておけばいいのではないかと思う。

(委員)

音楽家協会はプロ意識をもってやっているが、大牟田文化連合会の中にもプロはい
る。例えばバレエなど。

(事務局)

資料 2-1 の 11 ページの「大牟田市の主な文化芸術の概要」については、今回のご意
見により団体の規模等含め、表現方法を見直したい。次回の審議の中で変更点も含め
てご説明させていただきたい。

3 大牟田市文化芸術振興プラン(第3期)の案に対する市民意見募集について

(事務局) 資料 3 に沿って説明

意見なし

4 その他

- ・大牟田文化会館大ホールの水損事故の進捗報告

(事務局)

今年の4月に発生したスプリンクラーの水損事故について、進捗をご報告する。
水損により改修が必要となった舞台機構、舞台照明、音響等の改修費用を6月補正
予算にて計上し議決された。令和6年1月4日の再開に向けて順調に進めている。

意見なし

- ・次回審議会の日程について

(事務局)

次回の審議会については、10月12日(木) 15:00から開催したい。
場所は、北別館4階第4委員会室の予定。

意見なし

- ・総合体育館について

(委員)

現在建設中の総合体育館には、文化施設として使用できる部屋などはあるのか

(事務局)

アリーナと併せて広い会議室が設置される予定。中折で仕切ったりもできるので文化的な展示会として使用は可能であると考え。パネル等の備品の準備まで整うかはまだ分からない。

(委員)

アリーナではコンサートなどもできるのか。

(事務局)

催事も可能な作りとすることを目標にはしている。音響的に適しているかはわからないが、コンサートも実施はできる。